

ハサのヒーロー

・松本 洋志 さく・オオノ ミホ え



ハサのヒーロー

・松本 洋志 さく・オオノ ミホえ



ぼくには、ヒーローがいっぱいいる。
「ヒーローはひとりじゃないの？」って、
ともだちは、そういうんだけどね。

う——ん

ヒーローってどんな人のことをいうのかな？





パパは、

“感動を届けてくれる人”のことをヒーローだっていってるよ。

“感動”って、ワオーとかスゴイとか叫んじゃうことでしょ？

だったらぼくには、

その“ワオーとか叫んじゃう人”がたくさんいるんだもん。

ぜったいひとりになんかしほれないよ。





パパの子どもの頃のヒーローは、プロ野球選手！
パパは、友達と小学校3年生の時に、野球チームを作ったそうだから、
野球が大好きだったんだね。
でも、パパのヒーローはひとりじゃなくて、
たくさんの野球選手だったんだって。

ね、ほら、ヒーローはひとりじゃないでしょ？



だから、ぼくにもヒーローがいっぱいいるんだよ。
いっぱいいたほうが、^{たの}楽しいよ。
だって、毎日だれかが、^{まにち}^{かなら}^{かつ}必ず活やくしてくれるんだもん。





パパと、プロ野球の試合を見に行ったよ。

ぼくも、野球が大好き。先祖代々野球が好きみたいで、

ぼくが生まれる前に亡くなったおじいちゃんも、野球が大好きだったんだ。

でも、おじいちゃんのヒーローはたったひとり。

“神様、仮想”とかいわれていた、伝説のピッチャーなんだって。

ひとりだけだったんだね。ちょっとぼくと考え方がちがうかなあ…。

でも、神様で仮想なんだから、ひとりじゃないってことだよ、たぶん。





だいす
せんしゅ
とうじょう
ほらっ、ぼくの大好きな選手が登場した。

「いっぽつ、ホームラン頼むよ！」
たの

ほんとう
「ウワー、すごい！やった！本当に打ってくれた！」



パパと、陸上競技を見に行ったよ。

パパは、子どもの頃、足がとても速くて、リレーで5人も抜いたんだってさ。

うらやましいな。ぼくは、そんなに速くはない。

でも、鉄ほうみたいな器械体そうは得意だよ。

たぶん、パパより上手だと思うよ、逆上がりは負けないよ。





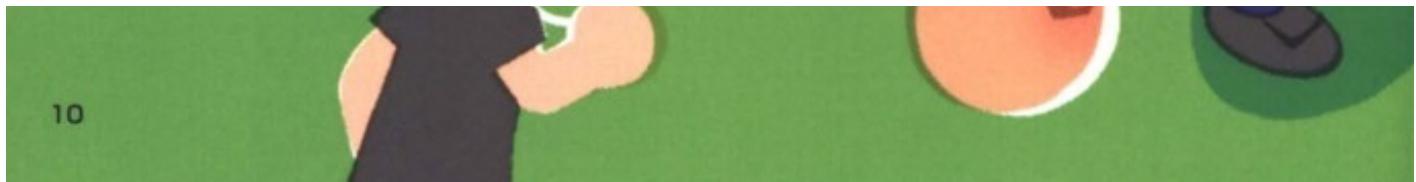
だいす にっぽん いちはや せんしゅ とうじょう
ほらっ、ぼくの大好きな日本一速い選手が登場した。
しんきろく たの
「新記録、頼むよ！」
ほんとう しん
「ウワー、すごい！やった！本当に記録こう新だ！」

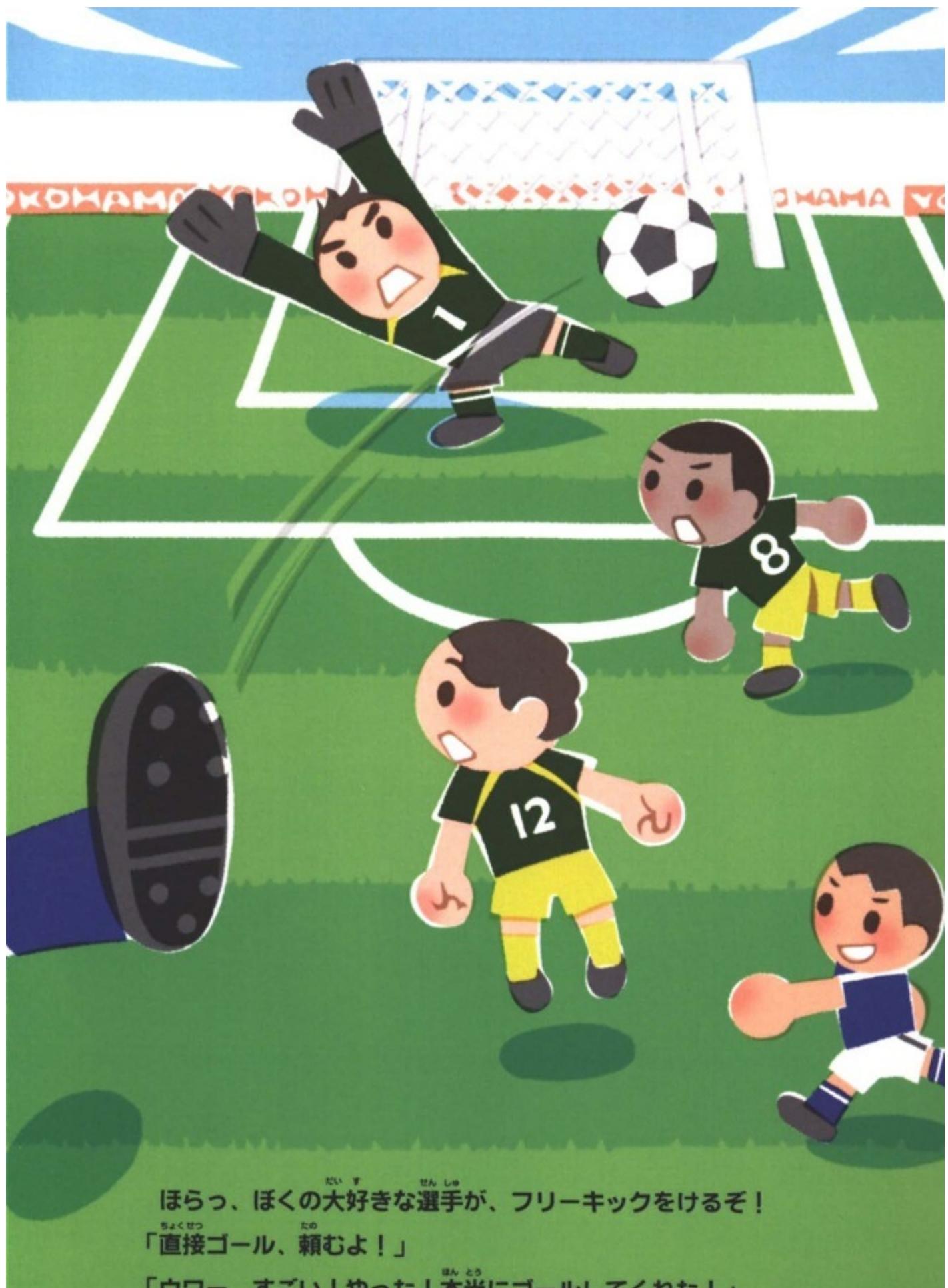




パパと、サッカーの試合を見に行ったよ。
 パパは子どもの頃、野球がいちばん好きだったけど、
 冬は、サッカーもやってたみたい。
 足が速かったから、ポジションはフォワード。
 攻げきの時には、ゴールめがけて全力で走ったんだって。
 ぼくは、サッカーも野球と同じくらい大好きだよ。
 幼稚園の頃から、サッカー教室にだって通ってるんだ。
 たぶん、パパより上手だと思うよ、
 リフティングは負けないよ。







ほらっ、ぼくの大好きな選手が、フリーキックをけるぞ！
「直接ゴール、頼むよ！」

「うー、うーい！うーん！本当にゴールひいてー！」

パパと、戦隊ヒーローのステージショーを見に行ったよ。

パパが小学生の頃は、戦隊ヒーローなんていなかったんだって。

かわいそうだね。

パパの子どもの頃は、悪いやつらを、誰がやっつけてくれたのかな？

ぼくは、生まれた時から、毎年新しいヒーローに会えるんだ。

幸せだよね。







ほらっ、ぼくの大好きなレッドが登場した！

「レッドスペシャルで攻げきだ！」

「ウワー、すごい！やった！本当に全部やっつけた！」

か がく かん ふ し ぎ り か じっ けん み い
パパと、科学館へとても不思議な理科の実験を見に行ったよ。

こ こ じっ けん にが て
パパは、子どもの頃からぶきっちょで、実験が苦手だったみたい。

とく い
スポーツは得意なのにね。

じっ けん だい す ひ つか こわ
ぼくは、実験が大好きだよ。火を使うのはちょっとだけ怖いけどね…。

おな こ み とき
でも、同じクラスの“あの子”が見てる時は、

ゆう き で こわ へい き
勇気が出てくるから怖くないよ、平気さ！







あっ、ヨレヨレの白衣姿で、不思議博士の登場だ！

「博士は、いつもおもしろい実験をやってくれるんだよね。」

「ウワー、すごい！やった！本当に、形が変化するんだ！」



きれいな地球を見てみたいんだ。



う　ちゅう　ひ　ごう　し　の　こ
さあ、宇宙飛行士が乗り込んで、カウントダウンが始まるぞ。

はっ　しゃ
「スリー、ツー、ワン、発射！」

ほん　とう　う　ちゅう　と　い
「ウワー、すごい！やった！本当に宇宙まで飛んで行った！」





ぼくのヒーロー帳見せてあげる！

ほら、すごいでしょ！

ぼくのヒーローの写真でいっぱいなんだ。

ええと、これはこの前の大ホームランのシーンで、

こつちは、ノリーキツの瞬間で、





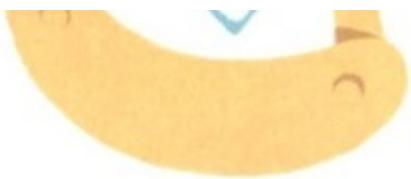
それと、これは悪いやつにキックするシーンだよ。

そうそう、これはロケットに乗り込む宇宙飛行士だよ。

ねえ、すごいでしょう。みんな、ぼくのヒーローなんだよね。

わかった？ヒーローはひとりじゃないって、たくさんいるんだって！





それと、これは本当かどうかよく分からぬけど、
 ママに聞いたら、パパもヒーロー帳を持ってるんだって。
 でも、パパは、そんなの持てないって、絶対に見せてくれないんだよね。
 いったい、パパのヒーローって、誰と誰と誰なのかな？気になるよね。
 気の多いパパのことだから、たぶん、ヒーローは千人くらいかな！
 いやいや、1万人かな！
 きっと、何百冊もヒーロー帳を持っているはずだよね。
 どこに隠してあるんだろう。
 物おきかな？
 よし、今度、絶対探すぞ！





こっそり教えちゃおう…

パパの、今いちばんのヒーローを、「ぼく」くんは知りません。

その人は、プロ野球の選手ではありませんよ。

そして、科学者や宇宙飛行士でもありません。

その人は、

まるで、戦隊ヒーローみたいに、いろいろ“変身”できるんです！

たとえば、家に帰るのも忘れて、遊びに夢中になっちゃう、

アソビーマン  に。

うれしい時には、“のどちんこ”をいっぱい見せて笑っちゃう、

ゲラゲラマン  に。

悲しい時は、涙ぐしょぐしょで、エーンと大声で泣いちゃう、

ナキムシマン  に。

そして、お腹が空いたって、ごはんをおいしそうに食べちゃう、

パクパクマン  に。

その人は、

—そう、「ぼく」くん、きみのことです。

きみこそが、

パパに“感動を届けてくれる”たったひとりのヒーローです。

がんばれ！負けるな！パパのヒーロー！







